

「学生とシニアの対話会イン福井 07」 (2007. 7. 14)

福井新聞 4面 (2007. 7. 18)

原子力の未来 大学生と議論

7(4)
シニアネット、福井で

原子力関連企業などで活躍し現在は第一線を退いた専門家が、学生たちと今後のエネルギー事情について語り合う「学生とシニアの対話会イン福井・07」が十四日、福井市の福井大文京キャンパスで開かれた。写真。

日本原子力学会員の六十一・七十代有志でつくるシニアネットワーク連絡会(SNW)が、若者に経験や知識を伝え、次代を担う気概を養ってもらおうと同学会学生連絡会とともに企画。SNWが発足した昨年五月以来、全国の大学などで同様の対話会やシンポジウムを開いている。

この日は、福井大と福井工大で原子力や物理工学を専攻する大学生、大学院生三十二人とSNWメンバーら十五人のシニアが参加した。始めにSNWメンバー二人がスピーチ。日本原子力研究開発機構特別顧問の岸本洋一郎さんは、世界の原油生産量推移グラフから「世界の原油はあと半分しかないと考えられる」と説

明。三菱重工工業特別顧問の金氏顕さんは「原油の限界や地球温暖化を踏まえると原子力は切り札で、そのために若い世代の力が必要。夢と目標をもって素晴らしい技術者になって」と語りかけた。スピーチの後、六つのグループに分かれ、シニアと学生が対話。原子力関連企業に求められる人材についてや、原子力技術に対する反対意見をどう考えるかなど、積極的な論議が交わされた。

